

オリンピック・パラリンピック・ムーブメント推進校 実施報告書

【都道府県】 宮城県

【学校名】 宮城県柴田高等学校

【テーマ】 Ⅰ Ⅱ Ⅲ Ⅳ Ⅴ

【実践研究タイトル】

修学旅行を活用したオリンピック・パラリンピックの知識の習得と、スポーツの振興・発展に寄与する人材の育成

【実施学年、部、講座等】

第 1 学年 体育科（男子 29 名・女子 10 名）

第 2 学年 体育科（男子 25 名・女子 11 名）

第 1・2 学年 普通科（男子 164 名・女子 153 名）

【目的・ねらい】

修学旅行を利用して世界的なスポーツの祭典であるオリンピック・パラリンピックに関する知識を身につけるとともに事前や事後の研修をととしてスポーツの精神や意義を学び、スポーツの振興・発展に寄与できる人材の育成を図る。

【種類】(当てはまるものに○)

- 各教科（スポーツ総合演習） ・道徳 ・外国語活動 ・総合的な学習の時間
・特別活動 ・教科以外での取組（ ）

【実践内容等】

実践内容 I

「東京への修学旅行をととして、オリンピックによるスポーツ講演会とオリンピック関連施設の見学によるオリンピックの意識の醸成」

(1) オリンピアンによるスポーツ講演会

目的： オリンピアンである大林素子氏から、目標(夢)実現に向けて努力をした話やオリンピックの素晴らしさを聞くことにより、グローバルな見識を持つ人材の育成を図るとともにオリンピックに関する知識を身につけることにより、スポーツ精神やスポーツの意義をととして、スポーツの振興・発展に寄与できる人材を育成する。

講師： スポーツコメンテーター大林素子氏（元バレーボール日本代表選手）

演題： 「マイ・ドリーム ～夢をあきらめない～」

日時： 平成27年12月3日(木)19:00～20:30

会場： 国立オリンピック記念青少年総合センター センター棟 5階 511研修室

スポーツ講演会において、上記の内容を行いました。



<大林素子氏からのスポーツ講演会の様子>

(2) スポーツ強化関連施設の研修

修学旅行中に、トップアスリートのトレーニング施設を見学し、最先端の施設や器具を体験しスポーツ強化関連施設の充実を実際に見ることができました。また、専属の管理栄養士の先生から栄養講習も受けることができ実のある研修となりました。



<スポーツ強化関連施設での様子>

実践内容Ⅱ

オリンピック関連DVDを視聴することによりオリンピック精神の知識定着を図る

- (1) 近代オリンピックの創始者ある、「ピエール・ド・クーベルタン生誕150周年記念改訂版」のDVDを視聴しクーベルタン氏のスポーツへの思いとオリンピックの価値である、「世界の平和」「卓越」「友情」「敬意・尊重」、そして、バランスのとれた「知・徳・体」についても理解しました。また、スポーツの価値についても、更なる人間の高みを目指し努力する姿勢を学びました。
- (2) 日本のスポーツの父と呼ばれる、嘉納治五郎氏の「嘉納治五郎～スポーツを通じた人間教育」を視聴し嘉納治五郎氏のスポーツは人間教育の場であるという考え方から、「精力善用」心と体を最も効率的に使うことや、「自他共栄」他者への尊敬の心を持ち自分だけではなく他者と共に栄える世の中を作ること等を理解しました。

実践内容Ⅲ

オリンピック・パラリンピックに関して書籍やパソコン等で調べ学習による知識習得に励み、それを展示発表や校内放送による発表を行い、学校全体への醸成を行いました。

(1) 2年生体育科(36名)が9グループごとに分かれ調べ学習を行いオリ・パラの理解を深めました。

<内容>

- ① 「オリンピックの歴史」
- ② 「オリンピック採用種目の謎」
- ③ 「アンチドーピングについて」
- ④ 「オリンピックで起きた事件」
- ⑤ 「パラリンピックの賞金について」
- ⑥ 「開催国に与える影響」
- ⑦ 「エンブレムについて」
- ⑧ 「パラリンピックの歴史について」
- ⑨ 「パラリンピックを支える人たち」



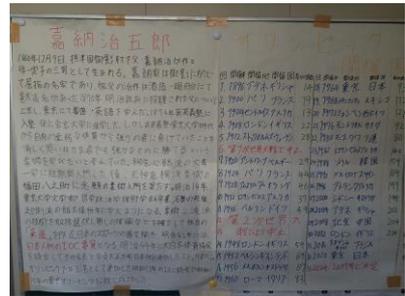
<発表用模造紙の準備の様子>

(2) 上記の項目について、1年生体育科に対して発表会を行いオリ・パラ知識の共有を図りました。また、修学旅行で体験してきた大林素子氏のスポーツ講演会やスポーツ強化関連施設の感想も代表者が発表し内容の共有を図ることもできました。



<発表会での様子>

(3) 調べ学習をしたものを廊下に展示発表しました。加えてその内容を全校生徒が理解できるように校内放送による発表も行いました。



<展示発表の様子>

実践上の工夫点、留意点等

基本的には、2年生体育科(36名)が活動し、校内におけるオリ・パラの醸成を行いました。年度途中ということもあり、何の授業で扱うか課題にはなりましたが、2年前からの新学習指導要領により新しく入った、スポーツ総合演習の授業の中で行いました。発表会時においては、1年生のスポーツ総合演習と合わせて行うことができました。

成果

1 オリピック・パラリンピックに関する意識調査(本研究前に実施)

主に取り組んだ2年生体育科の生徒達がどれだけオリピック・パラリンピックに関して理解しているか調査をしました。

調査実施日 平成27年12月1日(火)

対象 2年生体育科 36名

質問 オリピック・パラリンピックに関して知っていることを書いてください。

(オリピック)

- ・4年に1度開かれる大会である。 ・夏季と冬季に分かれている。
- ・2020年東京で開催、1964年にも東京で開催したことがある。 ・ドーピングが厳しい。
- ・年によって開催される場所や種目が異なる。 ・第1回はアテネで行われた。
- ・入賞すると国から賞金がもらえる。 ・嘉納治五郎氏
- ・剣道と野球は競技認定をされていない。 ・球技で初めて正式種目になったのは水球

(パラリンピック)

- ・障がいを持った方々の為のオリピックである。 ・特有のルールがある。
- ・夏季と冬季で開催する。

<調査の結果>

この調査の結果、自分の専門種目については、理解しているが、オリピック・パラリンピックについて理解している生徒は少なく、今後、本研究の取り組みにより知識を増やしていくことが必要だと感じました。

2 オリンピアンによるスポーツ講演会の感想

調査実施日 平成27年12月11日(金)

対 象 2年生体育科 36名

(感想)一部抜粋

- ・大林素子さんの話を聞くまでは、自分の嫌いなことは後回しにしていました。だけど、「楽なことは先送り」苦手なものに関しては「明日やろうじゃなくて、今日やって明日休む」という話を聞いて考え方を変えることができました。
- ・やりもしないのに結果を自分で決めつけてしまうのはもったいない、何にでもチャレンジすることが大事である。
- ・好きなことをとことんやり続けることの大事さを教わりました。
- ・練習の際に他人と同じ数をやるのではなく、1回多くやることを続けていたと聞きました。
- ・私も大林さんのように誰よりも努力して強い選手になりたいです。
- ・大林さんの話をお聞きして、何回挫折してもまた立ち上がり何度でも続けていれば、自分の夢にたどりつくと感じました。
- ・何でも挑戦することで、自分のためになる。

大林氏には、他にもオリンピック精神や考え方を教えていただくとともに、これからの生徒達の生き方やオリンピックに対する思いをしっかりと動機づけて頂きました。素晴らしいスポーツ講演会になりました。

3 オリンピック関連DVDを視聴しての感想(一部抜粋)

(1)ピエール・ド・クーベルタン生誕150周年記念改訂版

- ・オリンピックは自分を向上させ、「知育・徳育・体育」のバランスを重要視し、人間を育成する目標があることがわかり共感しました。
- ・オリンピックを開催することは、平和をもたらす。そして、現在のオリンピックも同じ理念で開催されていることを初めて知りました。
- ・クーベルタンの理念は、「より高く、より速く、より強く」そして、「世界平和のために」開催されていたことがわかった。
- ・努力するところに体育的な価値があること、相手を尊重する大切さという考えにそっていることがわかった。
- ・2020年には東京でオリンピック・パラリンピックが開催されるので、世界平和や日本の文化的要素・芸術を世界に発信して、“日本”という国をより多くの人に知ってもらいたいと思いました。

(2) 日本スポーツの父、嘉納治五郎の「嘉納治五郎～スポーツを通じた人間教育」

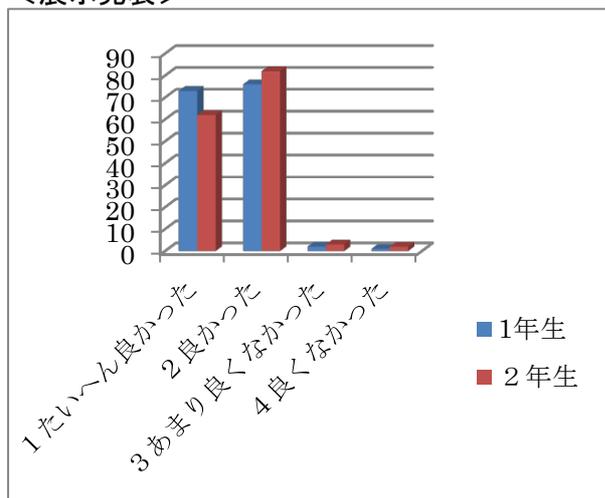
- ・クーベルタンと同じで、自らを高め、スポーツの大切さや楽しさを伝えるために熱い心があった人だと思いました。
- ・スポーツから人間教育や世界平和を求めて、勝つので全てではなく、参加して感じるものを得るのも必要だと、今まで多くの人に教えているのだと感じました。
- ・自国だけではなく他国にも目を向けて、交流していたのは凄いと感じました。
- ・「自他共栄」は、お互いに信頼し、共に栄えることができるという深い意味を持っており今もなお受け継がれている言葉であることに感激しました。

ピエール・ド・クーベルタンや嘉納治五郎を知ることにより、オリンピック精神やスポーツの意義、世界平和とオリンピックも絡めて考えることができました。

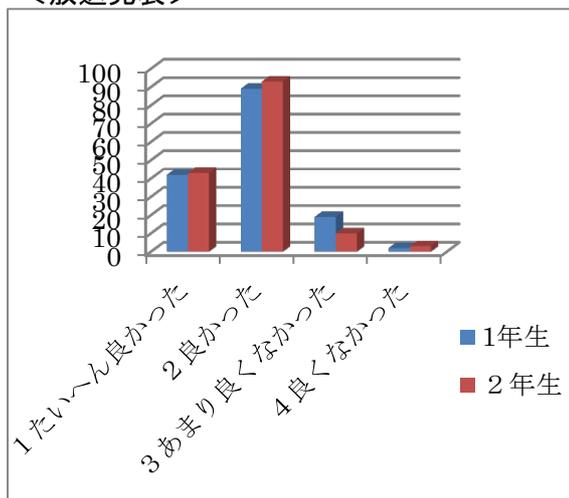
4 2年生体育科による調べ学習を行い、それを1学年体育科へ発表し相互理解を深め、その後本校1、2年生全員を対象に展示発表や放送発表を行い、アンケートの結果は次のとおりでした。

- ① 今年度2年生体育科が取り組んだ「2020年東京オリンピック・パラリンピックに向けて」廊下においての展示発表並びに昼休みの放送発表は、いかがでしたか？

<展示発表>

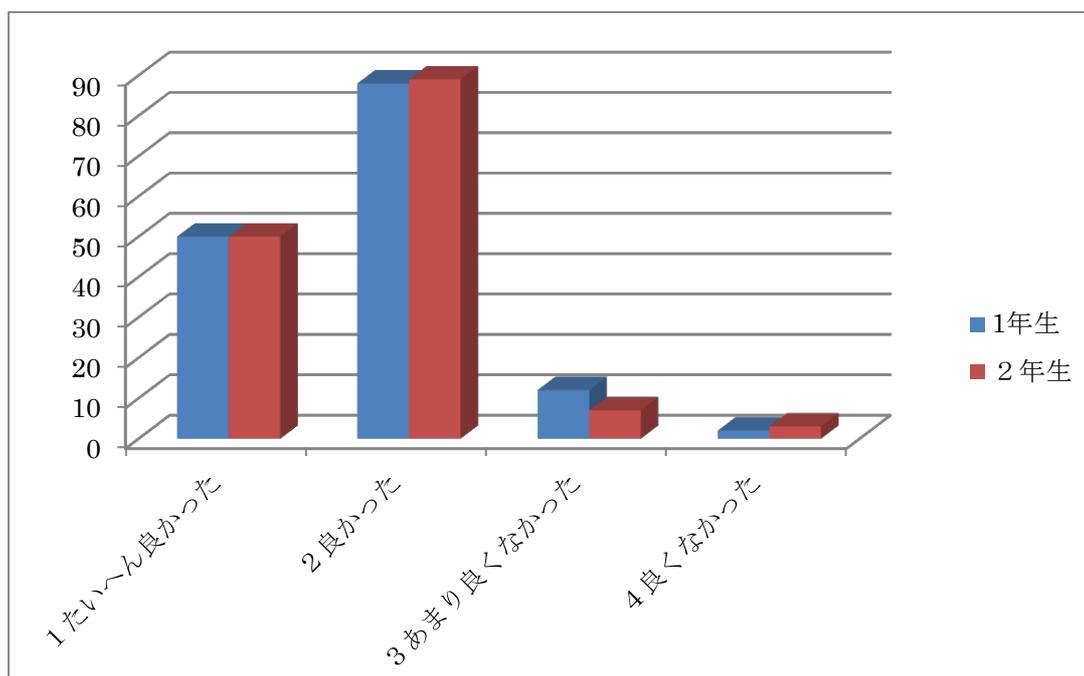


<放送発表>



展示発表においては、殆どの生徒が良好であったと回答しており、オリンピックのわからなかった部分が理解してもらえたと考えられる。しかし、放送による発表は放送による発表は不慣れなため緊張して声が小さく聞き取り難かったり、説明がわかり難い点があったためと考えられる。

② この取組は、オリンピック・パラリンピックについて、新しいことを知るための学びの場になりましたか？



「2020年東京オリンピック・パラリンピックに向けて」という題で、各種発表を行いました。このアンケートに関しても92%の生徒が、肯定的な意見がデータとして見られこのような取組の有効性があることがわかりました。

4 本研究を振り返って

<2年体育科オリ・パラ教育を振り返っての感想> 一部抜粋

・今回の活動を通して様々な面から協力して活動することで、知識・理解を深めるだけでなく、同じグループの人との仲も深まり、分からなかった長所を見つけることができました。発表等もさせてもらうことにより達成感も感じることができました。

・この活動を通して、様々な視点から2020年東京オリンピック・パラリンピックに見ることも、何らかの形で携わることもできることがわかりました。

・オリンピック・パラリンピックが身近に感じる事ができた活動でした。もっと知識を増やしたいと思いました。自分たち体育科にとってはとても良い活動でした。

・修学旅行での活動や学校での活動を通して、オリンピック・パラリンピックを身近に感じる事ができたので良かったです。

<まとめ>

・上記の感想等から、今年ブラジルで開催されるリオオリンピック・パラリンピックや4年後に迫った東京オリンピック・パラリンピックに向けて、本校全体がオリンピック・パラリンピックの意識の高揚と醸成が行われたものと考えられます。

【オリンピック・パラリンピック教育の実施に伴う課題点】

今回の実践を通して、体育科の生徒達に限らず学校全体でオリンピック・パラリンピックを考えるいい機会になりました。来年度以降も同じ内容で継続的に柴田高校として取り組んでいきたいと考えます。

課題点としては、スポーツ講演会の講師依頼が、今回は宮城県と筑波大学にお手伝いいただき講師の選定を行えましたが、本校独自に講師派遣をお願いする手段がなく悩んだ時期もあったので前もって講師の選定を行わなければならなかったことがありました。

また、DVD視聴によるオリンピック思想の定着においても、ソフトがなくJOC等に連絡をとらせてもらい、嘉納治五郎記念館を紹介していただきDVDの提供を受けました。また、NPO法人日本オリンピック・アカデミーからピエール・ド・クーベルタン氏のDVDを提供していただきました。突然の連絡でしたが、対応していただき感謝しております。

事前準備がおろそかになってしまい、慌てて対応したところもあるので前もって準備することが大切であると感じました。